

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570508523		
法人名	社会福祉法人本荘久寿会		
事業所名	グループホーム望海の家		
所在地	秋田県由利本荘市浜三川字小山口20番地		
自己評価作成日	令和2年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いや希望に添って支援することに力を入れており、日常でも話を聞き要望を取り入れるよう努めている。また毎月個別支援を行い、個人が主役になれる場面を作っている。家族との繋がりも大切に、面会時や必要時に状態報告し情報交換や情報の共有をしている。毎月、望海の家便りの発行と担当職員から日頃の様子を手紙にし伝えている。地域に出向て認知症カフェの開催も計画している。事業所外も広々としており、散歩やお花見、BBQなど季節ごとに楽しむ機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の介護老人保健施設とは廊下を歩いて往来でき、日常的に連携体制が築かれています。今年新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特に利用者の外出支援が困難となり、管理者と職員は話し合いを繰り返し、事業所の広場で楽しむ機会を増やし、また昔からのお菓子作りを行い食べることの喜び、大切さを味わっていただけるよう工夫した取り組みが実施されています。5月からネット配信を始め、職員はオンラインで研修を受講し、サービスの質の向上に繋がっています。更に家族や知人の面会も制限されることもあり10月からテレビ電話が出来るようになり、現状に即した支援が実施されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ何度ごとに事業所の目標を掲げ、その目標に基づき支援している。また、見える場所に掲示し共有している。	法人の理念・目標を基本に年度初めに前年度の反省を踏まえ、各ユニットごとに目標を設定し、会議などで確認し合いながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に頻回な交流はないが、近所の方と挨拶を交わしたり、移動販売を利用している。	町内会長の協力をいただき、地域の情報を得ることもあり、実習生の受け入れは例年通り行いながら、地域との交流を深められています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の公民館で認知症カフェ開催の実績あり、今後も続けていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開始し、入居者の近況報告や事業所の活動状況・検討事項等話し合いサービスの向上に努めている。また、職員も交代で出席できるようにしている。	町内会長(民生委員)・包括職員・家族代表等が出席し、活発に意見交換しています。外部評価の実施状況を報告し、目標達成計画を作成するなどサービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの出席あり、情報交換している。認知症サポーター養成講座を包括支援センターと協力し開催した実績あり。協力関係を築いている。	事業所の要望を伝えたり、ケア会議やグループホーム連絡協議会などで、地域の情報の提供があつたり協力関係を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開催している。また、行動制限せず、所在確認をし危険がないよう見守り、付き添っている。	定期的に委員会を開催し、拘束に対して理解を深め、拘束をしない支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会に参加し学ぶ機会を持つと共に、委員会の設置やポスターを掲示している。虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度を活用している利用者はいないが、研修会等に参加し学ぶ機会を設けている。また、法人内外で情報交換している。	zqls	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや入居時など利用者や家族に書面を活用し十分な説明を行い、疑問や不安の解消に努め理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置している。また、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞き運営に反映させている。	コロナウイルス感染拡大防止のため、家族との面談はほとんどないが、定期的なお便りや電話などを通じて、意見や要望を伺い、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議やその都度、職員の意見や提案を聞き、働きやすい環境を整えるよう努めている。	職員からの気付き、要望により改善された事例も数件あります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績や勤務状況を把握し個々と面談したり、各自向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量に応じて法人内外の研修会や勉強会を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会、勉強会、研修会の参加を通し、情報交換しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞き、困っていること不安なことなどを把握し職員間で情報を共有し統一したケアを行い、安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望や不安なことを伺い安心してサービスを利用できるよう努めている。また、毎月ご本人の様子を手紙で伝え、困ったことや気になることがあれば、いつでも連絡していただける関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者共に助け合って生活している。生活の知恵を入居者から学び職員は自立支援に努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし、一緒に本人を支えていけるよう関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響にて面会や外出泊は行っていないが、家族に手紙を書いたり、電話で話をしたり大切な人との繋がりを途切れないよう支援している。	8月から行きつけの理髪店など利用できるようになりました。家族との直接の面会は制限されていますが、小包をいただいたりして関係が途切れないように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食事の席を考慮したり、ソファを設置し皆が集まって寛げる場所を作り、利用者同士が支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、断続的関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いが出来るよう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話等から利用者それぞれの思いや希望を聞き、出来るだけ希望や意見に添えるよう努めている。	自分の思いや意向を話してくれる方が比較的多いが、日々の関わりの中で一人ひとりの意向などについて関心をはらい、把握に努めています。情報はカルテや申し送りノートで共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供をもとに利用者・家族との話し合いを通して、これまでの経過など把握するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンシートや日々の記録、申し送り等にて一日の過ごし方や心身状態、有する力等の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人も交えて担当者会議を行っている。家族には介護計画について説明し意見や要望を聞いている。職員と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	経過記録はプランに沿った支援内容が記述されています。日中・夜間と分かりやすいように色分けして記録されています。定期的なアセスメント・モニタリング実施カンファレンスで検討されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の記録を記入し日々の様子やケアの実践、気づき等の情報交換や共有を行い介護計画の実践の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響にて外出は控えているが、馴染みの店に髪染めの染粉を買いに出かけたり、豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通っている医療機関を受診している。また、かかりつけの薬局があり、何かあった場合相談しやすい関係となっている。	受診介助は職員が付き添いますが、必要に応じて家族も同行することもあります。訪問歯科や代理受診もあります。受診情報はカルテや申し送りノートで共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常でとらえた情報や気づきを看護師に相談し、個々の利用者が適切な処置や受診を受けられるようお支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの生活している間の症状や状態を情報提供し、医療機関からも治療計画等の情報を受け方針を共有する体制を整えている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応にかかる指針は整備されており、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から家族や医療機関と話し合いを行い、方針を共有する体制を整えている。	看取りはしていませんが、早期に家族や関係者と話し合い、統一した考えで対応し、家族が安心して最期を迎えられるような体制を整えています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習の参加や勉強会を行い急変時や事故発生時に備えて初期対応の実践訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけている。また、町内会長を通して地域との協力体制を築いている。	隣接する同法人と合同で、日中火災を想定した避難訓練を実施しています。終了時には消防職員の講評もあり、また全職員が停電に備えて発電機の操作方法を身につけています。万一に備えて数日分の非常食も準備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくり丁寧に言葉を選び話しかけるよう心掛けています。	馴れ合いの言葉には特に気をつけて、耳元で分かりやすい言葉で話しかけるように支援しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとりながら本人の思いや希望を傾聴し自己決定できるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、出来るだけその人らしい毎日を過ごせるよう支援し、その日にやりたい事が出来るよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整髪や髭剃りをしたり、好きな洋服を選び身につけたり出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物は他の食材にしたり、一人一人に合わせている。また、一緒に下ごしらえや盛り付けなどの調理をしたり、配膳や下膳、片付けなど一人一人が出来ることを行い、食事が楽しみになるよう支援している。	法人の管理栄養士がつくる献立をベースに、各ユニットごとに利用者の状態に応じて数種類の調理内容が用意されています。以前のような外出しての食事は出来ない現状であり、敷地内でバーベキュー・出前寿司・おやつづくりなど食事を楽しむ環境づくりがされています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表にてカロリーやバランスをおよそ把握できている。食事量・水分量は記録し状況を把握し不足な量は補えるよう支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分でできない方には洗面所に誘導し、それぞれの力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録、把握しその情報を職員間で共有し、排泄パターンを活かしながらトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりに適した用品を使用、記録を活用しトイレ排泄を促し、拒否する方でも時間をずらしたり職員を変えたりしながら、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や散歩、体操など運動を取り入れている。最終排便を確認し看護師に報告、便秘薬の併用等で予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状態に合わせて支援を行っている。	入浴を拒む利用者には無理することなく曜日や時間をを変えたりしながら、週三回ぐらい入浴出来るように取り組んでいます。また、ゆずを入れるなど楽しく入浴できるよう工夫されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその時の状況に合わせて安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の説明を受け、各自のお薬情報やお薬カードで効能や注意を確認している。誤薬がないよう声出し確認し服薬支援をしている。薬による症状の変化がないか観察に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かし役割を持てるよう支援している。お酒を飲む機会があったり、得意の縫物をしたり、家事を行ったり、外気に触れたり楽しみや気分転換できるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出の機会は受診程度であるが、施設敷地内の屋外で散歩をしたり、お弁当を食べたりバーベキューなど行い気分転換できるよう支援している。	季節の変化を感じられるように、日本海や鳥海山が見える広大な敷地内を散歩して、屋内生活によるストレス解消など図れるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であるが、お金の管理が出来る利用者は、お金を所持している。他の方に関しては預り金として預かり必要時に使用できるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと希望があった場合は職員が電話をかけ本人に代わっている。手紙のやり取りができるよう届いた手紙を渡したり、投函したり支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・温度を調節し季節に合わせ花や飾りつけをしている。こまめに掃除し清潔に心地よく過ごせるよう配慮している。	木材がふんだんに使用された事業所内は隅々まで掃除が行き届き気持ちの良い共用空間となっています。職員が持ってきた花が生けてあったり、2匹の猫が職員について歩いたり、大きな生け簀には錦鯉が泳いでおり癒される空間です。広い事業所内を歩きやすいように履き物にも配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス、畳があり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、自宅の部屋と同じ家具の配置にしたり、自宅で使っていたタンスや机、食器や写真などを置き、安心して過ごせるよう工夫している。	ベットの配置は一人ひとりの状態に配慮、ベット周辺での転倒防止のためセンサーライトを設置、安全を第一に考えています。パソコンや書道を楽しんでいる利用者もおります。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホーム内には手すりがあり、歩行時につかまって歩けるようになっている。トイレには「トイレ」と表示し分かりやすくし、自立した生活が送れるよう工夫している。		